

国際部会

車椅子テニス大会の 支援ボランティア

国 9 - 国 竹内 義治

兵庫県車いすテニス協会主催の「KOBE OPEN 2007 車いすテニストーナメント」が今年も 4 月 27 日(金)から 4 日間、しあわせの村テニスコートで全国から 123 名の選手が参加して開催されました。本大会は 1993 年に国際車いすテニストーナメントとしてスタートし、今年で 14 回目を迎えました。



熱戦を繰りひろげる車椅子テニスの選手たち

いつからグループ わ 国際部会がお手伝いするようになったかは定かではありませんが、国際大会への外国人参加選手の送迎、会場での支援のために始まったと聞いております。昨年 2006 年からは「IFT フューチャーズ」大会として再出発し、参加選手も国内選手が主体となりました。

大会には多くの団体・グループの人たちが参加し、運営の支援をしています。私たちのグループ わ は、国際部会が中心になり北区会の皆様の応援を得て支援ボランティアに参加いたしました。

この競技は専用車いすを使い、プレー



テントの設営に汗流す会員の皆さん

ヤーは 2 バウンドでボールを打つことができる唯一の例外を除いて、健常者テニスと全く同じルールに従って、見ごたえのあるスポーツです。選手たちは障害者とは思われないほど明るく、素晴らしい試合を展開し、生き生きとしたプレーを楽しんでいました。そんな真剣な姿に接して、反って元気を貰った 4 日間でした。

私たち わ のメンバーの支援作業は伊丹空港、神戸空港、新神戸駅での参加選手の送迎、添乗をはじめ会場では、大会前日には会場の準備・設営、大会当日には専用駐車場の整理、テントの設営、飲み物・弁当の配布、トイレの掃除、廃棄物処理など大変幅広い作業のお手伝いをしていますが、延 50 人の方々に参加して頂きました。

最終日の表彰式では大会委員長より丁寧なる感謝の言葉をいただきました。快く参加いただきました国際部会、北区会の皆様、大変有難うございました。

ピオトープで自然を体験！ 麒麟ビール神戸工場を訪ねる 生 3 - 環 中島 洋吉



芝生のうえで「はっぱじゃないよぼくがいる」の絵本の読み聞かせる

本年度第 4 回のこうべ環境未来館エコスクールが、6 月 2 日(土)神戸市北区の麒麟ビール(株)神戸工場で開かれました。工場敷地内のピオトープや植樹などから季節を感じ、ゲームや遊びの中から自然の大切さを感じ取ってもらいました。

ピオトープ紹介のビデオを見た後、ビールから生まれた『エコジロー』を

主人公にした牛乳パック、ビール瓶、ラベル等をごみにせずリサイクル、ごみは分別する紙芝居と、アルミ缶、紙くずなど新しい資源となるももの話やリサイクルクイズなどで企業の環境への取り組みについて学びました。その後、外へ出て、ピオトープ周辺の芝生の上を素足になって歩いたり転がったりして自然を肌で感じてもらいました。

続いて「はっぱじゃないよぼくがいる」の絵本の読み聞かせの後、落ち葉を拾って、その落ち葉を顔に見たて、イメージすることを台紙に書き、参加者同士が作品の紹介をしました。1 枚の落ち葉でも見ようによってはいろんな表情を持っていることを発見し、作品を紹介しあうことで豊かな分ち合いの時を持つことができました。

また、ピオトープに入れてあったモンドリを引き上げ、ドンコやカワバタモロコを観察したり、ピオトープ周りの溝に、たくさんのオタマジャクシがいるのを発見しました。麒麟ビールへの質問タイムでは、子どもたちから、なぜ麒麟ビールというのか、ビールを作るとき使う水はどこから持ってくるのか、ホップはどこのものを使っているのかなど大人顔負けの質問が出ました。

最後に工場見学と試飲をして全てのプログラムを終了しました。参加者は、麒麟ビールの環境への取り組みの話を通して、リサイクルや資源の大切さを感じ取り、また、芝生の上を素足で歩いたり転がったりして自然の大切さを感じ取って もらえたと思います。